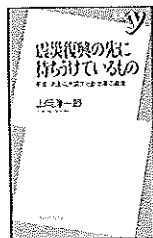


平井康嗣(編集長)／選



今号特集筆者が原案をてがける漫画。『少年サンデー』で読み、自分になにかできないか思案したが、己の無力さだけを感じた。漫画の力がある。

『ちいさいひと 青葉児童相談所物語』(第1巻)
爽竹桃ジン＝著 水野光博＝シナリオ
小宮純一＝取材・企画協力 小学館
440円 ISBN978-4-09-123449-0



関東大震災と東日本大震災を対比すると驚くほど似ているという。私は歴史は繰り返さないと考えているが、両者の比較はやはり気になる。

『震災復興の先に待ちうけているもの 平成・大正の大震災と政治家の暴走』
山岡淳一郎＝著 洋泉社
819円 ISBN978-4-86248-851-0

新聞記者らが「福島」の声を拾い集めた市井のオーラルヒストリー。自分が知らせたいものを知らせる。そんな達観がじわじわと染みてくる。

『@Fukushima 私たちの望むものは』
高田昌幸＝編 産学社
1785円 ISBN978-4-7825-7101-9



「精神病院は恐ろしさと同じくらい、それ以上に悲しみの場所だった」――。批判的精神が随所に滲む最近希少な潜入ルポ。

『潜入 閉鎖病院棟 「安心・安全」監視社会の精神病院』
柳田勝英＝著 現代書館
1890円 ISBN978-4-7684-5673-6

本箱



朝鮮に行き場面描写をしつつ思い出したように過去を回想する。その記述こそが心地よい。人は旅をし、そこに視るものは忘れていた自分が。

『ピョンヤンの夏休み わたしが見た「北朝鮮」』
柳美里＝著 講談社
1575円 ISBN978-4-06-217248-6



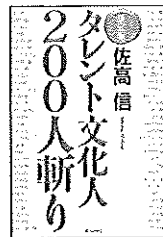
3月15日以後、何度となく風下の村、飯舘村を訪れた著者。数々の美しい写真の説明文は原発と放射能への痛烈な言葉で綴られている。

『福島第一原発 風下の村 森住卓写真集』
森住卓＝著 扶桑社
1000円 ISBN978-4-594-06512-6



トヨタ事故問題を追及した米国報道に関する章が希少。日本のマスコミには幻滅するばかりだが、米国のメディアには希望を感じてしまう。

『官報複合体 権力と一体化する新聞の大罪』
牧野洋＝著 講談社
1680円 ISBN978-4-06-217482-4



清潔に知的になるほど世の中は息苦しい。そんな中、孤軍奮闘、著名人の化けの皮をはぎ続ける著者。庶民の言葉で日本を斬る手腕が冴える。

『決定版 タレント文化人 200人斬り』
佐高信＝著 毎日新聞社
1575円 ISBN978-4-620-32100-4